

2007年3月16日

旭テクノグラス中山工場からの全面事業撤退を決定

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）の100%子会社である旭テクノグラス株式会社（本社：千葉県船橋市、社長：若村弘）は、2008年12月末までに、中山工場（本社・工場）から全面事業撤退することを決定しました。

旭テクノグラス中山工場は、1966年に自動車ヘッドライト用ガラスの生産を開始して以来、理化学用ガラス製品、耐熱ガラス食器、工業用ガラスチューブなどの硼珪酸ガラスに加え、ガラスフリットや窒化アルミ基板、バイオ関連試薬など特殊ガラス技術を核として幅広い分野へ事業を拡大してきました。しかしながら、現在同工場の主力となっている硼珪酸ガラスについては、大型炉に複数ラインを設置して様々な製品を生産する体制を取っていることから、昨今の原燃料価格の高騰などコストアップ要因への対応、また、一層の品質改善のための抜本的な体制再構築が大きな課題となっていました。

このような状況の下、当社は、旭テクノグラスの硼珪酸ガラスに関連する事業（サイテック事業、ハウスウエア事業、照明・工業事業）のコスト・品質面での競争力向上を図るため、同社の中山工場、静岡工場、タイ（タイ・イワキガラス社）の3拠点における生産体制を再編することとしました。

2008年12月末までに、中山工場から全面事業撤退するとともに、タイ・イワキガラス、静岡工場にそれぞれ新鋭炉1基及び付帯する生産・加工ラインを新設（総投資金額：約40億円）し、最適な生産体制を構築します。

なお、特殊ガラス技術という、当社と共通の技術基盤に立脚する旭テクノグラスのサイテック事業、ハウスウエア事業及び照明・工業事業に関する製造・販売・開発について、2007年4月1日をもって、当社との一体運営を実施することにしました。

この一体運営により、特殊ガラス技術のノウハウ、資源の融合化が更に加速され、当社の特殊ガラス事業の更なる成長に寄与できるものと考えています。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

(担当：箕田 TEL:03-3218-5408、Email:info-pr@agc.co.jp)

<ご参考>

◎旭テクノグラス中山工場（本社・工場）の概要

1. 所在地 千葉県船橋市行田1-50-1
2. 代表者 社長執行役員 若村 弘
3. 事業内容 サイテック事業（理化学用ガラス製品など）、ハウスウエア事業（耐熱ガラス食器など）、工業用事業（工業用ガラスチューブなど）、ガラスフリット事業、窒化アルミ基板事業、ティッシュカルチャー事業（バイオ関連試薬など）
4. 操業開始 1966年
5. 敷地面積 約72,000㎡
6. 従業員数 324名（2006年12月末現在）